

戸田市立戸田第一小学校

県学調等のデータを活用した授業 改善の取組について

令和 6 年度



どの子どもオンリーワン
未来を創造する力が育つ学校

～自分の頭で考え、多様な人と
協働してやり抜く子をめざして～



埼玉県学力学習状況調査結果より

- ・質問紙「勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。」「勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する」等、県・市町村平均を下回り、学習方略の数値も県・市町村平均を下回っている。
- ・「主体的で対話的で深い学びの実施」においては、どの学年も県を下回っている。



児童が、自分にあった学習スタイルや学ぶ方法、目標の設定等、**学習方略が弱い**。
教師は、協働的な学びの実践に努力しているが、**深い学びとなる授業展開の工夫が乏しい**。

令和6年度 具体的な取り組み

一体的な取り組み

大人PBL

- 教師も児童も自律した学び手となるため
- ・授業改善
自己調整力をつける、学習方略の視点を持った単元デザインの工夫という意図をもった自由進度学習への挑戦
 - ・業務改善
環境デザイン
 - ・誰ひとり取り残さない児童の居場所づくり



PBL

- ・児童がのめりこむ単元デザインの工夫
- ・地域・社会と連携した多様な人との学び
- ・地域で活躍する子供の育成
- ・ホンモノとの出会い

授業改善

- ・学習方略を児童自らが考えることのできる授業スタイルの転換
- ・学習意欲を引き出す導入の工夫
- ・多様な学習スタイル 自己決定のある学び
- ・学級経営力の向上

概要

県学調等のデータを活用した授業改善の取組について

- ・ 埼玉県学力学習状況調査結果
- ・ 埼玉県学力学習状況調査分析
- ・ 授業改善の取組

学力調査結果

埼玉県学力学習状況調査

伸ばした児童生徒割合

	現5年生		現6年生	
	国語	算数	国語	算数
県	67.0%	56.1%	46.8%	54.8%
本校	68.8%	59.4%	71.5%	59.1%

学力調査結果

埼玉県学力学習状況調査

学力の伸び（R6学力のレベルとR5学力のレベルの差）

	現5年生		現6年生	
	国語	算数	国語	算数
県	1.0	1.0	0	1.0
本校	2.0	1.0	1.0	1.0

埼玉県学力調査結果 学力の伸びの状況

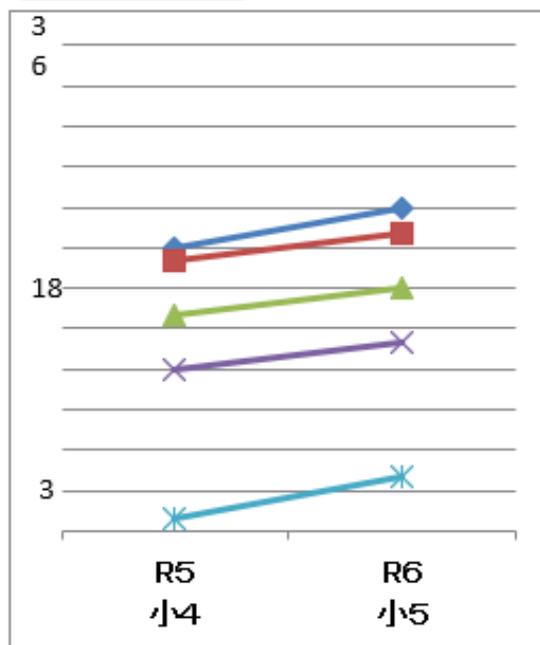
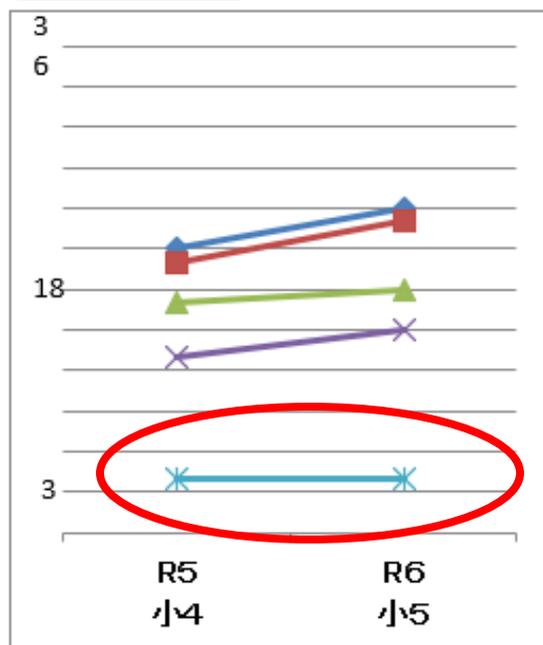
5年生 国語

学力の伸びの状況

貴実施主体

埼玉県

縦軸
学力レベル
36段階

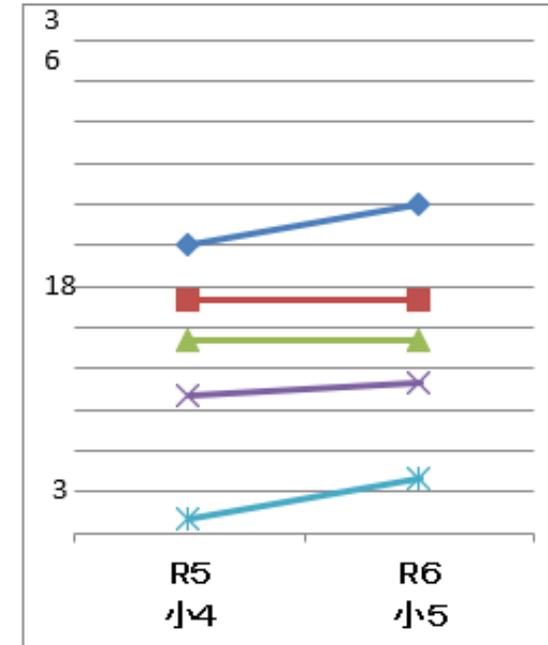
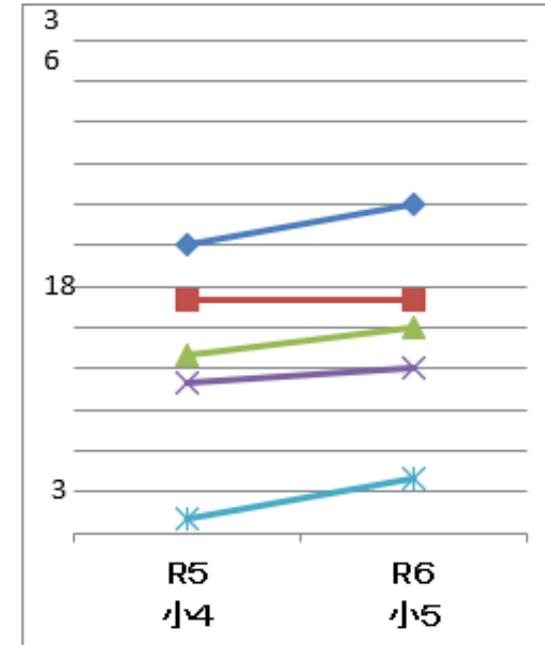


5年生 算数

学力の伸びの状況

貴実施主体

埼玉県



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力のレベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力のレベル)

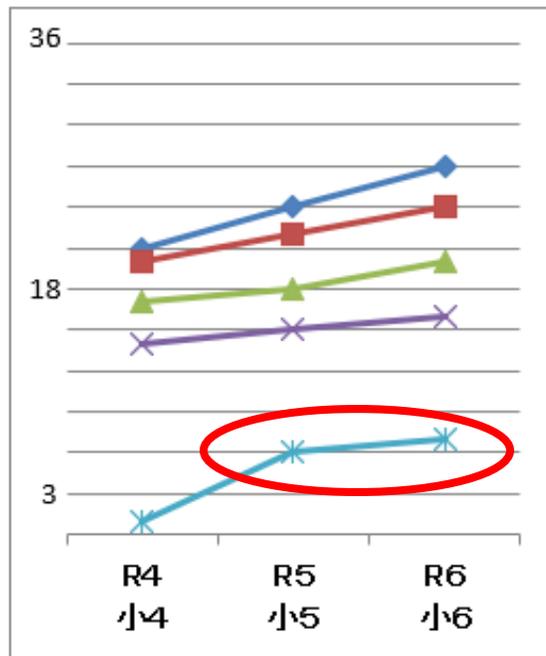
埼玉県学力調査結果 学力の伸びの状況

6年生 国語

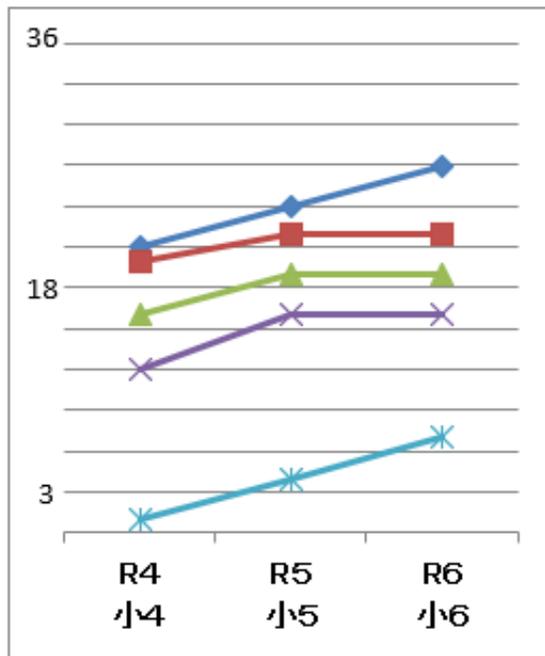
学力の伸びの状況

貴実施主体

縦軸
学力レベル
36段階



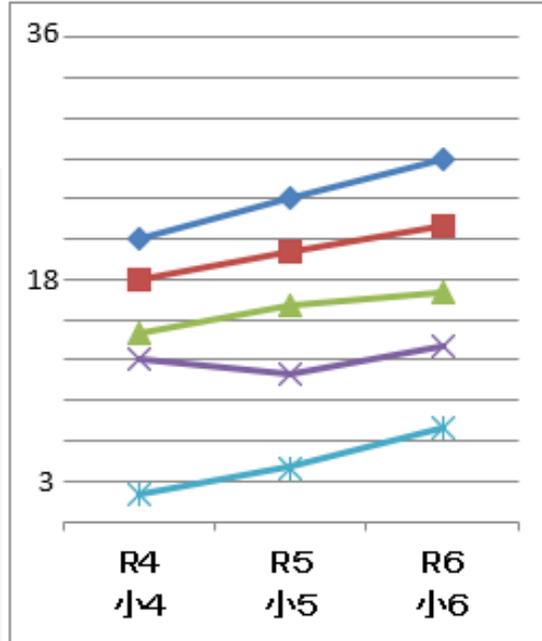
埼玉県



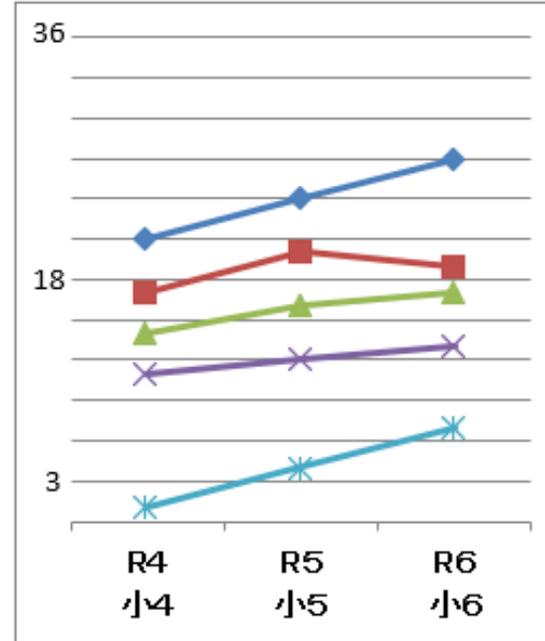
6年生 算数

学力の伸びの状況

貴実施主体



埼玉県



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力のレベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- ✱ ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力のレベル)

埼玉県学力調査分析

高学年の学力の課題は、学校全体の課題だと捉え、授業改善の視点で分析を行った。

4～6年の学級担任	自クラスの児童	分析
1年担任は6年	}	正答率から、問題に関する分析（苦手分野）
2年担任は5年		
3年担任は4年		
担任外		質問紙に関する分析

4～6年の学級担任

自クラスの児童 分析

教科ごとの学力についての考察（ ）年生

1 前年度、学力が伸びていない児童に関する主な要因分析

- ・宿題をやってきていなかった
- ・生活習慣が不規則になっている
- ・学習習慣、生活習慣が不安定
- ・基礎学力の不足
- ・家庭での学習の不足

教科ごとの学力についての考察（ ）年生

1 前年度、学力が伸びていない児童に関する主な要因分析

授業への集中力、学習意欲の低い児童。話を聞いていない。分からないことをごまかす児童。実感を伴った理解はできるが、抽象的な理解ができない児童。
リーディングスキルが低い児童。読書量の少ない児童。数の概念がない児童。

**学力が伸びていない児童
具体的な児童名をあげ、学年内で共有**

- ・不規則な生活習慣の児童
- ・学習習慣、生活習慣の不安定な児童
- ・授業への集中力が低い児童
- ・学習意欲の低い児童
- ・読書量の少ない児童 等

1年担任は6年
2年担任は5年
3年担任は4年

正答率から、問題に関する分析（苦手分野）

2 領域、観点別の結果及びそれぞれの問題分析を通じて、その学年が苦手とする分野がどこであるのかを分析して記述する。

考察（国語） 【苦手分野】・文の主語・辞書の使い方・読点を使って文章を推敲する・登場人物の心情理解・文章の内容の理解
考察（算数） 【苦手分野】・（時間が足りなかったです）およそ10項目 割合、小数のわり算、い分母の足し算 体積 展開 小数のわり算

3 本年度の結果等から見出した課題を克服するための方策



国語 辞書は授業で使用していない。今後、使った方がよいのだろうか。 ⇒やるならモジュールで。	算数 習熟の方法を選択 個別の習熟
--	-------------------------

苦手分野 例

- ・辞典の使い方→国語辞典を授業で活用する機会を意識していく。
- ・文の主語→主語述語熟語などの知識に関しては、モジュールで短時間で終わらせず、継続的に。

担任外 質問紙に関する分析

2 質問紙から戸一小的の強みと弱み

強み
勉強の必要性を感じている児童が多い
自信がある、自己肯定感は高め

弱み
難しい課題に挑戦しようとする意欲や根気が乏しい（つまらないと思うとやめる）
学んだことを結びつける力は弱い

強みをさらに伸ばし、弱みを強みに変えていくための方策



できたことを褒めて自信ややる気につなげていくことで、新しいことに挑戦する意欲につなげていく

質問紙分析

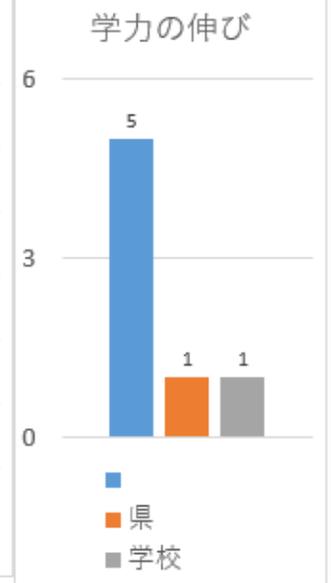
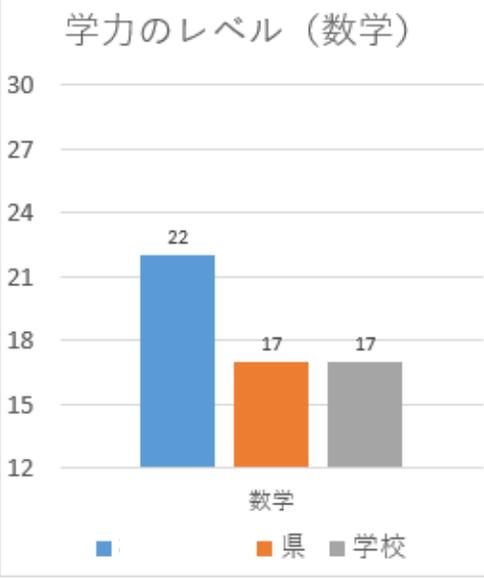
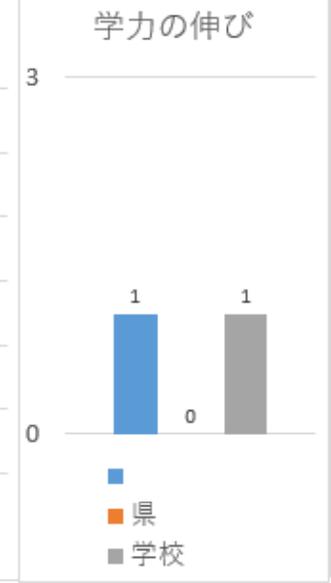
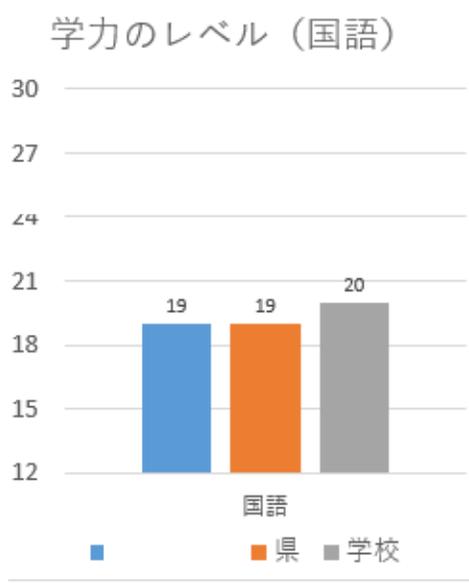
難しい課題に挑戦しようとする意欲や根気が乏しい。



できたことをほめて、自信ややる気につなげる。

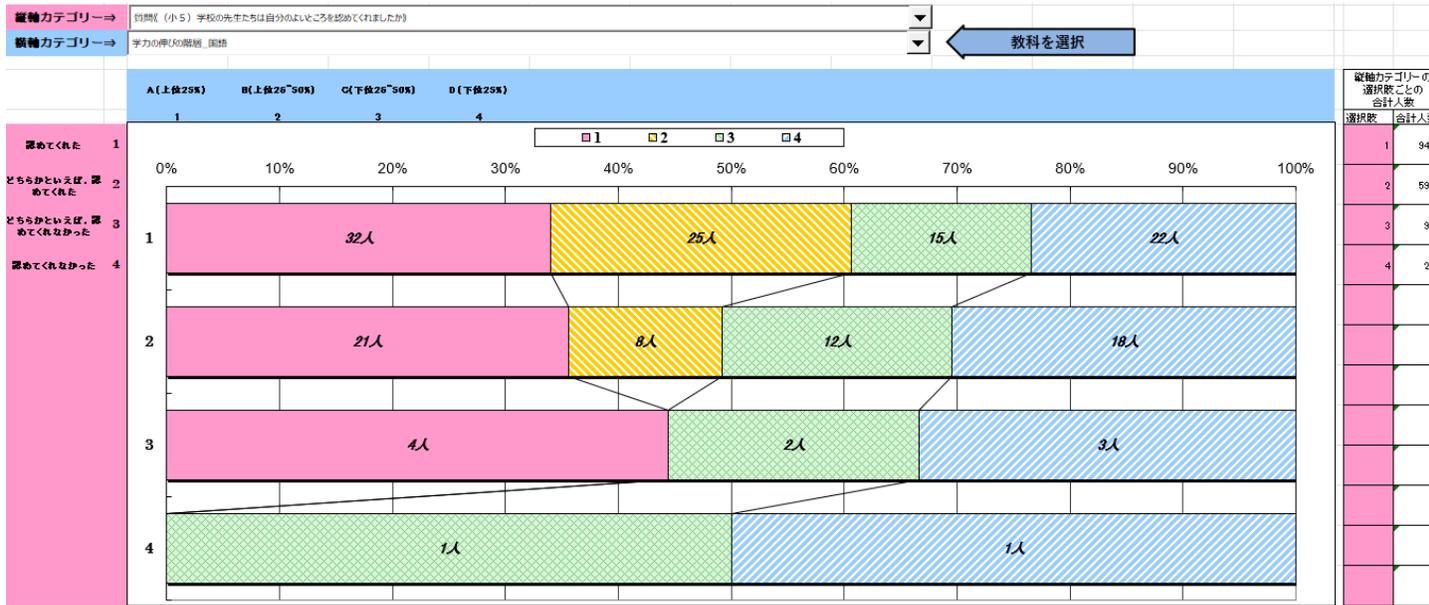
個人結果（学力のレベル・学力の伸び・学習方略・非認知能力）

	国語					算数					昨年からの変化量																
	R6レベル	レベル 数値化	学力の伸び	R5レベル	レベル 数値化	R6レベル	レベル 数値化	学力の伸び	R5レベル	レベル 数値化	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	-	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	-	
	30	7-C	19	1	6-A	18	8-C	22	5	6-B	17	3.8	3.8	2.8	4.5	4.0	3.8	2.8	-	1.0	0.8	-0.8	1.3	-0.3	0.5	-0.3	-
県	7-C	19	0	7-C	19	6-B	17	1	6-C	16	3.7	3.6	3.4	4.0	3.8	3.6	3.0	-	0.1	0.1	0.0	0.1	-0.2	0.0	-0.1	-	
学校	7-B	20	1	7-C	19	6-B	17	1	6-C	16	3.7	3.7	3.5	3.9	3.6	3.5	3.0	-	0.1	0.0	0.0	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-	



クロス集計より

質問項目×学力の伸びの階層



手立て

学級経営

- ・認め合う雰囲気
- ・安心してアウトプットできる人間関係
- ・心理的安全性が担保され、自分の思いや考えを自由に語れる学級風土

肯定的回答でのび率が高かった質問項目

- ・学校の先生、友達は自分のよいところを認めてくれましたか。
- ・グループやペアで話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと。
- ・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりとるようになったこと。

学力向上

授業改善

学級経営

- **学習の見通しが持てる授業展開・興味をひく導入の工夫**など、授業に主体的に取り組む工夫をする。
- 児童の**協働的な学びの充実**を支援し、児童が自分の言葉で考えをもち、交流できる機会を増やす授業展開をする。
- 教師による一斉授業から**子供主体の学び**になるようにする。
 - ・TeachingからCoachingへの意識転換
 - ・自己調整をしながら学びを進めていく授業
 - ・個別最適な学びが保障された授業

戸田市立戸田第一小学校『授業力』向上プラン

どの子もオンリーワン 未来を創造する力が育つ学校

～自分の頭で考え、多様な人と
協働してやり抜く子をめざして～



埼玉県学力学習状況調査結果より

- ・質問紙「勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。」「勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する」等、県・市町村平均を下回り、学習方略の数値も県・市町村平均を下回っている。
- ・「主体的対話的で深い学びの実施」においては、どの学年も県を下回っている。



児童が、自分にあった学習スタイルや学ぶ方法、目標の設定等、**学習方略が弱い**。
教師は、協働的な学びの実践に努力しているが、**深い学びとなる授業展開の工夫が乏しい**。

令和6年度 具体的な取り組み

一体的な取り組み

PBL

- ・児童がのめりこむ単元デザインの工夫
- ・地域・社会と連携した多様な人との学び
- ・地域で活躍する子供の育成
- ・ホンモノとの出会い

授業改善

- ・学習方略を児童自らが考えることのできる授業スタイルの転換
- ・学習意欲を引き出す導入の工夫
- ・多様な学習スタイル 自己決定のある学び
- ・学級経営力の向上

大人PBL

- 教師も児童も自律した学び手となるため
- ・授業改善
自己調整力をつける、学習方略の視点を持った単元デザインの工夫という意図をもった自由進度学習への挑戦
 - ・業務改善
 - ・環境デザイン
 - ・誰ひとり取り残さない児童の居場所づくり

学びの質の改革
質の高いPBL

概要

授業力向上プランについて

- ・本校の学校経営方針及び重点
- ・埼玉県学力学習状況調査
- ・全国学力学習状況調査 結果
- ・戸一小授業力向上プランの設定

授業改善に向けての取組

埼玉県学力学習状況調査（旧学級ごとの伸び率）

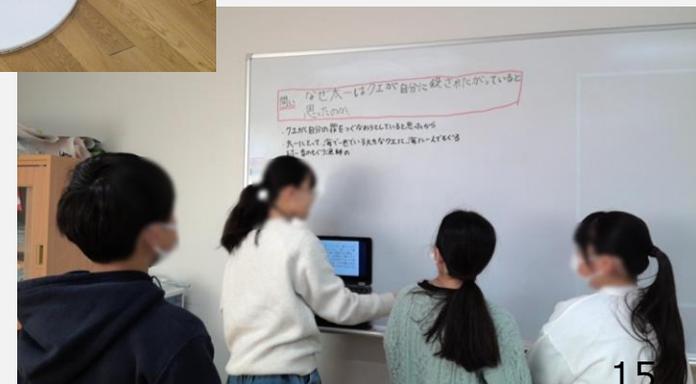
R4 学年	R4 組	R4児童生徒数	学力を伸ばした 児童生徒の割合 (%)		学力の伸び率 (R5学力のレベルとR4 学力のレベルの差の平均)	
			国語	算数	国語	算数
		埼玉県平均	77.7	57.7	2.6	1.1
	1	34	76.5	64.7	3.2	2.6

・学力を伸ばした教師の授業を見る



教材から、児童自らが問いや課題を議論し、課題設定を行っていく授業

児童が設定した学習課題から議論をし、学んでいく授業



授業改善に向けての取組

戸田市授業がわかる調査（楽しい授業）

授業がわかる調査（小学校） 学年別 回答の分布（わかる授業）

絞り込み 学校名 [] 実施回: 最新回 (1)

ページ選択 学年別 回答の分布と市平均 クラス別 回答の分布 (教科平均) クラス別・教科別 4年生 クラス別・教科別 5年生 クラス別・教科別 6年生

ページ選択 わかる授業 楽しい授業 探求心・社会貢献意欲・協働意識

学年別 肯定的回答の割合

わかる授業 (学校)	学年 / わかる計	わかる授業 (市平均)	学年 / わかる計
教科			
1.わかる国語			
2.わかる社会			
3.わかる算数			
4.わかる理科			
5.わかる外国語			
総計			

※「よくわかる」「だいたいわかる」と回答した児童の割合。85%以上を青、70%未満を赤で表示。

学年別 回答の分布

・わかる授業、楽しい授業 2観点での調査



楽しい授業 9割を超えている授業 模擬授業の体験



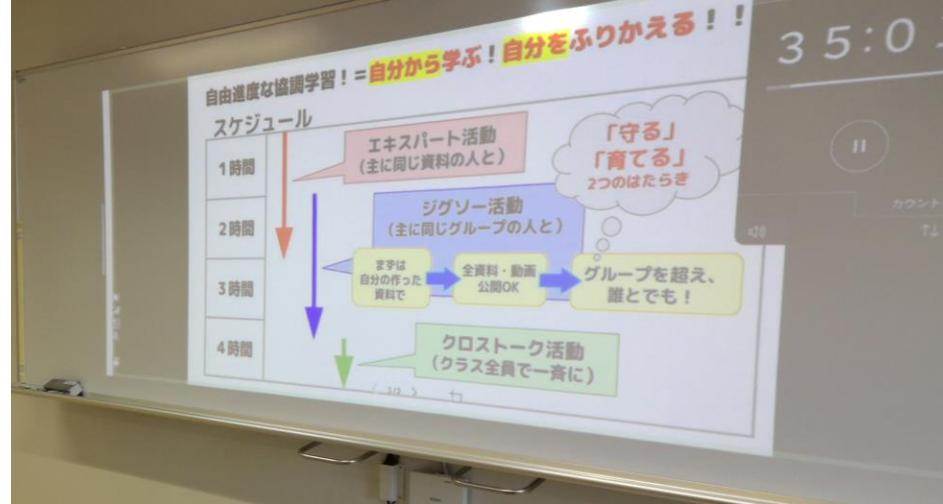
児童が自然と考えたい！と思わせる教材や導入の工夫を体感 →学びのハンドルを児童へ

授業改善に向けての取組

自己調整しながら進める学びとは？

協調学習の知識構成型ジグソー法を取り入れた授業

自己調整 スケジュールや学ぶ相手を考え、選ぶ



学級経営力向上に向けての取組

学校生活の基礎を身に付ける 1年生の学級経営

児童を誉め、認めながらの集団作り

児童を伸ばす学習指導





=



×



自己調整のある学び
学習意欲を引き出す導入の工夫

多様な児童が活躍できる学級
安心して学べる学級

戸田市立戸田第一小学校『授業力』向上プラン

どの子どもオンリーワン
未来を創造する力が育つ学校

～自分の頭で考え、多様な人と
協働してやり抜く子をめざして～



埼玉県学力学習状況調査結果より

- ・質問紙「勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。」「勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する」等、県・市町村平均を下回り、学習方略の数値も県・市町村平均を下回っている。
- ・「主体的で対話的で深い学びの実施」においては、どの学年も県を下回っている。



児童が、自分にあった学習スタイルや学ぶ方法、目標の設定等、**学習方略が弱い**。
教師は、協働的な学びの実践に努力しているが、**深い学びとなる授業展開の工夫が乏しい**。

令和6年度 具体的な取り組み

一体的な取り組み

- 大人PBL**
教師も児童も自律した学び手となるため
- ・授業改善
 - 自己調整力をつける、学習方略の視点を持った単元デザインの工夫という意図をもった自由進度学習への挑戦
 - ・業務改善
 - ・環境デザイン
 - ・誰ひとり取り残さない児童の居場所づくり



- PBL**
- ・児童がのめりこむ単元デザインの工夫
 - ・地域・社会と連携した多様な人との学び
 - ・地域で活躍する子供の育成
 - ・ホンモノとの出会い

- 授業改善**
- ・学習方略を児童自らが考えることのできる授業スタイルの転換
 - ・学習意欲を引き出す導入の工夫
 - ・多様な学習スタイル 自己決定のある学び
 - ・学級経営力の向上